

八上校区まちづくり協議会広報誌

やかみ高城

第八号

発行日：平成24年9月20日
発行者：八上校区まちづくり協議会
人口：2,311名（892世帯）
男1,114名 女1,197名
（平成24年8月末現在）

八上ふれあい夏祭り

地域おこし部部长
柴田 重久

夏本番を迎えた8月4日、第7回八上ふれあい夏祭りが、八上小学校グラウンドで、校区の人達が集まり開かれました。当日は朝から好天に恵まれ、各自治会、PTA、各サークルまた市支援員の協力により会場作りは進みました。御存じのように、校舎耐震工事のため、今年の舞台設定は、高城山を背景に組まれることになり、例年と変わりました。



全ての準備が整い、16時30分、夏祭り実行委員会委員長・丹後政俊氏の開会宣言により、スタートしました。各模擬店の前には、時間が進むにつれチケットを持つ子供たちが集まり、にわか仕立ての店員さんも暑い中、大粒の汗を拭きながら対応していました。提灯の明かりも夕刻が近づくと共に、一段と明るくなりその下で、出演を依頼した方々の、歌踊りの熱演を夕涼みしながら見入る人達で、会場は夏祭り一色に染まり、楽しい時が過ぎました。祭の最後には、豪華景品の当たる抽選会へと移り、抽選結果に一喜一憂の会場風景でした。終了時間まで十分楽しんでいただけたのではないかと思います。また、夏の良い思い出として残ればと思っております。

最後に今後とも校区の皆様には、八上校区まちづくり協議会の諸活動に協力していただき、お力添えとご協力をお願い致します。

平成24年度「八上校区ふるさと一番会議」企画部

平成24年7月9日（月）、午後7時30分から高城会館に於いて、約50名の参加により開催されました。

この会議は、酒井市長、前川教育長等が出席して、「市政、教育の課題や情報を積極的に公開し、校区の皆さんとの対話と協議を積み重ねることを通して、効果的な市政及び教育につなげていきたい」という趣旨で、各地区20会場で開催されています。



ふるさと一番会議

市長からの市政説明のなか、八上校区に係わる課題として、

1. 定住促進「ふるさとと篠山に住もう帰ろう」を目的に、各地区に住居アドバイザーを配置し、空き家の活用などを展開している。
2. 企業誘致・企業振興として八上に農工団地指定篠山中央地区を設定し、市長によるトップセールスを行っている。
3. 八上小学校の耐震改修に取り組み、現在工事中である。
4. 歴史文化のまちづくりとして、近隣市と連携してNHK大河ドラマに八上城と深い関係にある「明智光秀」を取り上げていただく運動をしているなどでした。

校区からの意見として、
1. 国指定史跡八上城跡の保存や管理について方向性を示して欲しい。
2. 救急医療体制における脳外科の保持と充実を望む。

3. ささやま安心・安全ネット（要援護者台帳）に係る個人情報取り扱い扱いを拡充して欲しい。
4. 京都府亀岡市で起きた小学生の通学途上における交通事故を踏まえ、中学生の自転車通学路の中で、特に危険と思われる篠山自動車学校前、京口橋北詰等における安全確保について。
5. 定住促進のため、空き家の活用など多数の意見が発表され、市側からそれぞれ回答がありました。

例年夏季に、高城会館に於いて開催されているこの会議は、常日頃顔を合わせることの無い首長等と意見交換ができることは校区の住民にとって貴重な機会と思われまます。校区から見た篠山市の行政の在り方、各自治会では解消されない広域の問題など、常に身近な問題に目を向け、問題を掘り下げ、発信することが、明日のまちづくりにつながると思われています。校区に対する熱い思いやお考えを八上まち協にお寄せください。

活動報告

第三回 八上ふるさと塾

「八上城下、伊能忠敬の測量道」

地域おこし部 池田 正男

平成24年7月8日（日）、高城会館に於いて、約50名の出席者により開催されました。

江戸時代の日本地図を初めて作った人、伊能忠敬は、1814年（文化11）2月、笹山領内に入り11日に八上校区の道を測っています。

伊能忠敬笹山領探索の会が、アメリカ議会図書館で発見された「伊能忠敬大図」をもとに篠山市内全域を1年間掛け、調査されました。その研究成果を加賀尾宏一会長ほかにより、伊能忠敬の業績、八上城下の測量道について、また同会の活動報告

と共に行いました。

- 伊能忠敬の業績として、
一、経営のノウハウを蓄積。
一、人とひとの巡り合わせが幸運を呼ぶ。
一、新しいボランティア事業に果敢に挑戦。
一、個人事業から直轄となる国家事業。
一、国家百年の計に献上した伊能家三世代（息子景敬、孫忠海）にまとめられること。



第3回 八上ふるさと塾

自治会だより

より良いコミュニティを
目指す環境整備が進む自治会

京町自治会長 溝畑 謙二

京町自治会は八上小学校の西側と北側の篠山川までの集落です。承応3年（1654年）池上村から分村し、松ノ木村と称しました。昭和33年（1958年）京町と改称いたしました。

現在の京町は、47世帯、4隣保組織で構成されています。

平成22年4月1日以降、京町公民館は、地縁による団体の法人化に取り組み、同年11月22日に自治会長名ではなく、自治会名で登記しました。

京町生産組合は、昭和53年に発足し、倉庫建設、田植機1台、乾燥機3台、糶摺り機1台、トラクタ11台等購入し、近隣の利用者と共に取り組んでいます。近年は、機械の更新と新規購入に力を入れ、米の計量器、石ぬき機、米リフト、糶摺り機の更新をしています。ま

概説として当時の測量の仕方と道具、伊能の作成した「大日本沿海輿地全図」などを、配布資料やスライドにより学んだ後、笹山領内の具体的な測量と文獻（御触書、人足手配、忠敬日記）から、当時の測量の様子を知ることができました。

八上校区における測量道は、現在の京街道と同じ道で、また伊能図に記された忠敬の歩いたルートと現在の航空写真を、パソコン上で重ね合わせた結果、ほぼ合っていると報告されました。

今回、篠山盆地の東西を結ぶ伊能の測量した道が存在し、地図に記され、年代が明確になりました。そして文獻から測量の様子を知ることができました。

今後、伊能忠敬の測量道を歩く機会を作りたいと思います。

た、事務所兼休憩室も設置しました。今年、糶穀ホッパーからパイプで分岐して糶穀の袋詰めをする機械を新たに購入し試みようとしています。農業は失敗が許されませんが、それがまた、やりがいにつながります。

今後の課題としては、農業の担い手育成とまた、自治会役員の後継者育成、そして、防災・防犯対策の強化に向けて取り組んでいく所存です。



京町公民館